南区の宝物 その2

郷土愛が支える、伝統の技と文化

人々の心が一つになる祭り、仏壇や鎌など伝統の技から生まれた工芸品。代々の技を習得し、伝えていくその陰には、さまざまな苦労があります。だからこそ、それは見る人に感動を与えてくれます。

先人の思いを受け継ぎ、後世に伝えていくエネルギー。それは南区の人たちが郷土を愛してやまない心なのです。

白根大凧合戦

～300年の伝統を誇る、勇壮な合戦絵巻～

大凧合戦の始まり

信濃川の支流、中ノ口川（川幅約80m）の両岸から畳24畳大の大凧を揚げ、空中で絡ませて川に落とし、相手の凧綱が切れるまで引き合う世界最大スケールの白根大凧合戦。その始まりは、江戸時代の中頃、中ノ口川の堤防改修工事の完成祝いに、白根側の人が凧を揚げたところ、対岸の西白根側に凧が落ち、田畑を荒らしたことに腹を立てた西白根側の人が、対抗して凧を白根側にたたきつけたことが、起源と伝えられています。このため、凧が相手側に向かって揚がるように作ってあり、先人の技術に、さらに改良を加え、現在に至っています。平成27年新潟県無形民俗文化財に指定されました。

各組それぞれに特色があり、揚がり方や掛け方に違いがあります。どの組も伝統を守り、技術に改良を加え、一枚でも多く合戦することを目的に、凧を作り上げています。

［巻凧（六角凧）］

大凧のほか、巻凧（六角凧）も45組（平成28年10月1日現在）あり、期間中、東西に分かれて合戦を行います。

空中に揚がる24畳大の大凧

凧合戦の楽しみ方 ―ルールと勝敗のポイント―

其の一

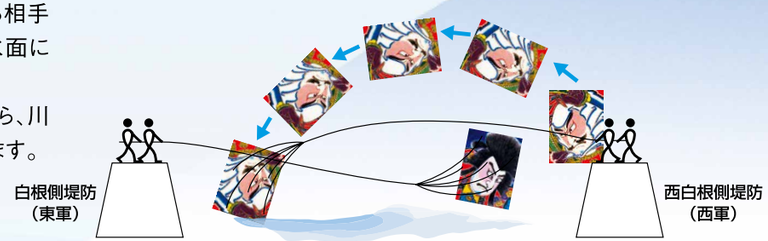
川をはさんだ相手と揚げるタイミングを計ります。

最初に東軍（白根側）が西軍（西白根側）の堤防めがけて揚げ、低空で相手を待ちます。

其の二

次に西軍の凧が揚がり、上空から相手の凧綱を交差させ、真っ逆さまに水面に突っ込みます。

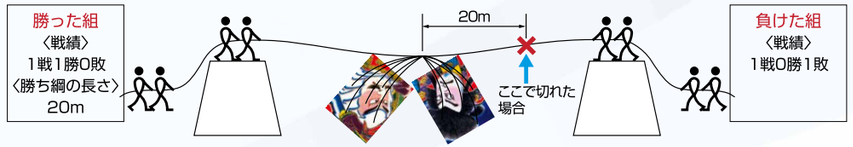
綱が絡み両方の凧が川に落ちたら、川の流れを利用して綱をより強く絡めます。



其の三

互いの綱を引き合って、相手の綱を切った方が勝ちとなり、期間中の通算成績で順位を決めます。

制限時間内で綱が切れなかった場合は引き分けで、両方の組が1戦0.5勝になります。引き合う前に凧が離れた場合を「ナキワカレ」といい、勝負は認められません。ここに紹介した勝負は基本的なパターンの勝敗の付け方です。実際の合戦では、複数の組が一緒に掛かることもたびたびあり、その状況により勝敗数の付け方が変わります。

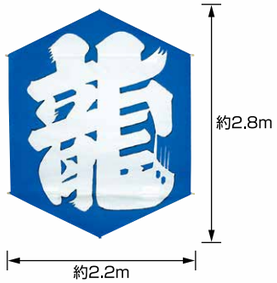


凧のサイズ

大凧 50kg

各組によって大きさや骨の数などに差があります。

巻凧（六角凧）



クローズアップ 4

白根の大凧は世界一

～ギネスブックに認定されたこともあります～

凧合戦で揚げられる大凧は畳24畳の大きさで、約50kgの重さがあります。1980年3月には縦19.07m、横14.1m、重さ350kgという大凧揚げに挑戦したところ、大空を13分間舞い続けました。これは当時世界記録としてギネスブックに掲載されました。

また、2013年にはアメリカ（ワシントン州）の世界凧博物館（World Kite Museum）に「殿堂入り」しました。